

朝日稔教授のご定年にあたって

朝日稔教授は国際関係学部の開設準備に関わり、国際関係学部創立時から、一貫して本学部の発展に多大なる尽力と貢献をなされた教員です。残念ながら、2007年3月末に定年で退職されることになりました。本号はその記念のために刊行されるものです。

朝日先生は1988年の国際関係学部の開設に伴い、経営学部から移籍されてから19年間にわたり、国際関係学部や国際関係研究科教学の発展に尽くされ、また立命館大学の重要な役職も経験されてきました。経営学部時代を通算すると25年にわたり本学に勤務されました。

朝日先生の本学での役職としては、学部主事、学部長、研究科長、教学部次長、立命館評議員、大学協議員などを歴任し、また、学会活動としては国際経済学会の会長を務められ、学部の看板教授としてだけでなく、社会的な学会活動においても本学の顔として活躍されてきました。

朝日先生がこれまでに成し遂げられた研究上の数々の業績は、「主要著作目録」を一読しただけでもお分かりになると思いますが、著書、論文などが多数あり、学界においても名の知れ渡った研究者でもあります。先生は、現代世界経済の諸問題を理論的かつ実証的に研究され、国際社会や世界の目まぐるしい政治経済変化を見据えた鋭い分析と提言を行ない、国際経済学の発展のために衆目する成果をあげてこられました。なかでも、先生はアメリカ貿易の構造解明に精力的に取り組み、大著『現代アメリカ貿易分析』を公刊され、学界においては高い学問的評価を受けています。

本学部での先生の主な担当科目は「国際貿易論」「国際政治経済学」、専門演習、大学院では「世界経済論研究」、特別演習(研究指導)などでした。また、先生の豊富な学識と真摯な教育によって、数多くの学部学生や院生が育ち、国内外の各領域で幅広く活躍しています。そのなかには、先生の指導、薫陶を受けた国際関係研究科の課程博士も多く含まれています。学部創立メンバーとして国際関係学部・大学院国際関係研究科の発展にご尽力下さり、また、立命館大学の教育・研究の発展に多大な貢献をされましたことに、学部を代表して深く感謝申し上げます。朝日先生の今後の益々のご活躍とご健康を祈念いたします。

2007年3月

立命館大学国際関係学部長 小 木 裕 文

